

令和8年3月6日

世田谷区立玉川小学校

学校運営委員会 委員長 木村 礼二 殿

学校長 鈴木 康一 殿

学校関係者評価委員会

委員長 豊福 晋平

令和7年度 学校関係者評価委員会 報告書

世田谷区立玉川小学校学校関係者評価委員会では、更によりよい教育活動が展開されるよう、外部アンケート（共通項目・独自項目）ならびに保護者ヒアリング・学校自己評価点検をもとに、本年度の教育活動全般を評価し、次年度の改善に向け、本報告書を作成するものである。

学校及び学校運営委員会においては、これら結果を冷静に受け止め、客観的に分析し、今後の対策を検討していただきたい。なお、記述の根拠となる評価資料等は別紙にとりまとめた。

評価資料概要

1.1. 外部アンケート

対象 保護者・児童（5～6年）・地域

実施 令和7年10月15日～10月30日

配布数 567件（全児童保護者）260件（5～6年全児童）15件（地域）

回答数

保護者 546件（1年89件・2年87件・3年84件・4年90件・5年117件・6年79件）96%

児童 245件（うち5年133件6年112件）94%

地域 15件

1.2. 学校自己評価点検

対象 本校全教員 38名

評価内容および提言

本年度はオンライン・フォームによるアンケート実施で7割回答を達成し、分析上は問題のない水準となった。実施方法や回収方法については、本年度もデータの訂正等が生じており、円滑に進められるような検討は引き続きお願いしたい。

本評価では、児童・保護者・地域・教職員の各データが概ね良好に回収され、学校生活全般について肯定的な評価が多く示された。特に学習指導や学校内の人間関係、教職員の取組については一定の成果が確認できる。一方で、課題解決的な学習の見えにくさ、生活指導や相談体制における受け手側との認識差、家庭・地域行事への参加や情報共有の分かりにくさといった課題も明らかになった。これらに対し学校側は、学びの可視化や公開機会の拡充、早期かつ丁寧な情報共有、探究的学習や地域連携の再設計など具体的な改善策を提示している。指摘された課題の性質と改善策の方向性は整合しており、妥当かつ実行可能な対応と評価できる。

次に、領域別の考察を記す。評価の根拠については別紙に示した。

1 学習指導

この領域は、児童8項目・保護者7項目・地域1項目・教職員8項目で構成される。

全体として平均は概ねプラス側に位置し、4領域の中でも「教職員の平均が最も高く出やすい」領域である一方、

同一内容の対象者間比較では、児童→保護者→教職員（+地域）で平均が段階的に高くなる項目が多い。

- 児童項目は「思う」「とても思う」が多数派の項目が多い。特に **C34（タブレットをよく使う）** は「全項目中で特にポジティブな平均値」であり（+）、肯定回答が強く偏る。
- 児童の中では **C32（学ぶことが楽しい）** と **C37（地域や外部の方の話を聞く授業にすすんで参加）** が相対的に低めで、前者は「全項目中で特にネガティブな平均値」（-）、後者も平均が低く、否定回答と「わからない」の混在が目立つ。
- 保護者項目では **P33（課題解決学習）** が「無回答の割合が高く、質問に課題がある」（？）かつ「全項目中で特にネガティブな平均値」（-）で、わからないが多く、評価のばらつきが大きい。
- 学年差（D）は **P31 / P32 / P35** に見られ、いずれも1年が高めで、4年が低めに落ち込み、6年で持ち直す形が共通している（例：P31=1年 1.52→4年 0.82→6年 1.34、P32=1年 1.51→4年 0.78→6年 1.29、P35=1年 1.44→4年 0.79→6年 1.56）。

学習指導・対象者間の平均差

- 対象者間の平均差として、同一趣旨の項目（例：学ぶ楽しさ＝児童 1.08 に対し保護者 1.01、教職員 1.95）では、教職員側が高く、保護者側が相対的に抑制的に評価する傾向が出ている。特に **課題解決学習（33）** は児童 1.19 に対し保護者 0.81（？-）、教職員 2.11 で開きが大きい。

項目	児童	保護者	地域	教職員
31 わたしは、学校で学力を付けている。学校は、学習指導で、児童に学力が身に付くよう努力している。	1.20	1.09		2.16
32 わたしは、学校で学ぶことが楽しい。学校は、学習指導で、児童に学ぶ楽しさを味わせている。	1.08	1.01		1.95
33 わたしは、学校で課題を解決する学習をしている。学校は、児童に課題を解決する学習をさせている。	1.19	0.81		2.11
34 わたしは、授業でタブレットをよく使っている。学校は、タブレットを使った授業を計画的に行い、児童に情報活用能力を付けている。	1.91	1.11		1.58
35 わたしは、学習で、考えを持ち、友達と話し合いをしながら授業を行っている。学校は、学習で児童が考えを持ち、友達と話し合いをしながら授業を行っている。	1.59	1.20		1.74
36 学校生活は、自分の健康づくりに役立っている。学校生活を通じて、児童が体力向上や健康な生活を送れるよう指導している。	1.36	1.04		1.63
37 わたしは、学習で地域や外部の方の話を聞く授業にすすんで参加している。学校は、学習場面で、地域や外部講師などを効果的に活用して教育活動を行っている。	0.63	1.14	2.27	1.89



- 学校側は、教職員自己評価が高い一方で「学ぶ楽しさ」「課題解決学習」「地域や外部と関わる学習」において、児童・保護者が相対的に低い（またはばらつく）点、特に「課題解決学習」は無回答が多い点を課題として明示している。保護者側については、保護者会減少・学年だより縮小等により学習内容が伝わりにくく、家庭内で話題化しにくいこと、学校公開の時期と学習実施時期のずれで参観機会が乏しいことを挙げている。
- 来年度の改善として、地域連携学習を「探究的な学び」へ転換し、児童が課題を見付け主体的に調べ、体験・

インタビュー等を通して課題解決していく学習にシフトすること、公開機会（2学期公開・活動日の参観呼びかけ）、3学期の発表会、教科全般での「学びのサイクル」定着を掲げた。

- R8方針でも「地域連携学習の充実」「探究的な学び発表会（3学期公開）」が示されており、学校側の計画として一貫性が高い。探究的な学びへの転換は段階的継続的でないとも展開が難しいので、中長期的なテーマとして取り組むことを望みたい。

2 生活指導

この領域は、児童6項目・保護者6項目・地域4項目・教職員5項目で構成される。

4領域の中では「肯定が強い項目が多い」領域で、特に教職員平均が非常に高い。一方、地域回答は母数が小さく「無回答の割合が高く、質問に課題がある」(?)が複数付いており、数値の解釈には揺れが入りやすい。

- 児童では **C42（友達と協力）** が「全項目中で特にポジティブな平均値」(+)で肯定に強く偏る。
- 児童の **C41（ルールを守る）** と **C43（相談しやすい）** は学年差(D)が示され、提示されている学年平均では低学年側で差が出ている（C41：1年 1.20、2年 1.56／C43：1年 1.00、2年 1.49。※学年別が一部のみ表示）。
- 保護者項目は概ねプラスだが、相談環境（P43）などは相対的に平均が低めで、否定回答も一定数含む分布になっている。
- 保護者の学年差(D)は多く、**P41・P42・P43・P44・P46** で共通して「1年が高め、4年が低め、6年で持ち直す」傾向が見える（例：P43=1年 1.45→4年 0.67→6年 1.37、P44=1年 1.64→4年 0.82→6年 1.30、P46=1年 1.78→4年 1.19→6年 1.52）。
- 地域項目（R41～R44）はすべて(?)で無回答割合が高い。加えて **R43・R44** は(?-)で、地域側からは相対的に低めの評価が示されている。

生活指導・対象者間の平均差

- 対象者間比較では、例えば「相談しやすさ(43)」で児童 1.23・保護者 1.03 に対し、教職員は 2.16 と高く、受け手（児童・保護者）側の体感が相対的に低い構図が示唆される。

項目	児童	保護者	地域	教職員
41 わたしは、安全で安心な生活が送れるよう、学校のルールを守っている。学校は、児童が安全で安心な生活が送れるよう、学校での過ごし方やルールについて指導している。	1.37	1.38	1.55	2.16
42 わたしは、友達と協力して生活している。学校は、児童が友達と協力できるように指導している。	1.97	1.23	1.33	2.16
43 困ったことやわからないことを先生に相談しやすい。学校は、児童や保護者が教員に相談しやすい雰囲気や環境を整えている。	1.23	1.03		2.16
44 わたしは、返事・あいさつ・後始末ができています。学校は、返事・あいさつ・後始末ができるように指導を行っている。	1.29	1.15	1.00	1.84
45 わたしは、毎日の生活や学校行事で、自分の役割がある。学校は、毎日の生活や学校行事で、児童に役割をもたせて指導している。	1.67	1.55		2.21
46 わたしは、安全・防災に関する知識を理解し、対応の仕方を身に付けています。学校は、児童に安全・防災に関する知識を理解させ、対応の仕方を身に付けています。	1.41	1.43	1.00	



- 学校側は「教員の自己評価が高い一方で児童と保護者の評価が低い」点を主要課題として整理している。
- 教員側の自己認識として、生活指導の方針共有や週2回の打ち合わせ等は機能している一方、学校としてさらに見直す必要、また教員が相互に相談しにくい状況を挙げた。児童側については、きまりの必要性の納得形成が不十分なまま遵守している面や、中学年後半～高学年で反発が出やすい発達的变化を背景として説明している。保護者側については、担任不在等が起こり、情報公開が遅い・不十分という不満、担任差（学級経営・生活指導）が低評価につながるという認識を示している。
- 来年度の改善として、低学年からの「きまりの必要性」の丁寧な説明、特別活動と連動した「主体的な生活者」への転換、学年全体での声かけ（専科等も含む）、早期の保護者連絡・面談、面談後のフォロー（改善点だけでなく良い点も伝える）を述べている。これらはいずれも妥当なものと考えられる。
- アンケート上は「相談しやすさ」等で受け手（児童・保護者）と教職員自己評価のギャップが示唆されており、学校側が“手続き（早期連絡・面談・フォロー）”と“集団づくり（主体的参加）”の両面から改善策を提示している点は妥当である。保護者ヒアリングでも、生活指導や担任交代をめぐる不信・疑念、早期の情報共有への期待が明確であり、改善策（早めの共有、チーム対応、フォロー徹底）はニーズに直結している。R8方針にある「安心・安全な学校」「挨拶のできる学校」や、コミュニケーションの問題解決力を育てるプログラム（セカンドステップ）の位置づけは、生活指導の再設計を“技能と文化”の双方で支える要素になり得る。

3 学校全体

この領域は、児童2項目・保護者5項目・地域5項目・教職員6項目で構成される。

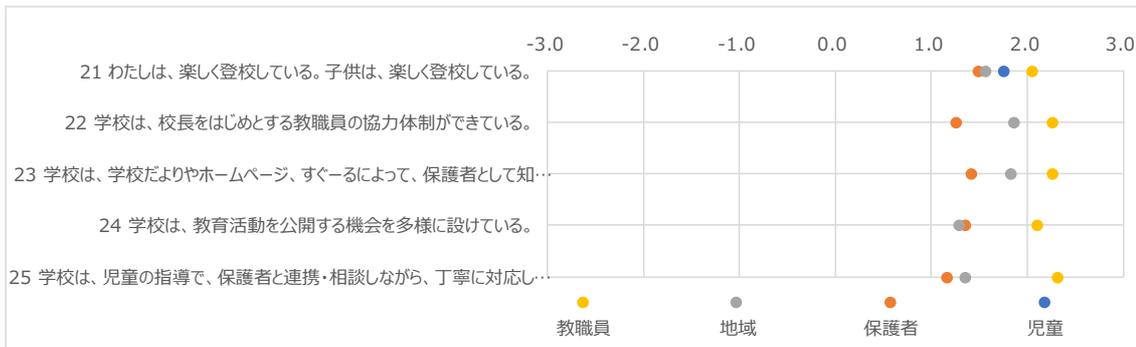
4領域の中でも平均が高めの項目が多く、特に教職員は複数項目で2点台に達している。一方、保護者は教職員より低めに出やすく、学年差（D）が付いた項目では学年による見え方の違いが明確である。

- 児童では **C22（丁寧に話を聞いてくれる）** が「全項目中で特にポジティブな平均値」（+）で、肯定が強い。登校の楽しさ（C21）も肯定優勢である。
- 保護者では **P21（子供は楽しく登校）** が（+）で相対的に高い。学校からの情報提供（P23）や公開機会（P24）も肯定が多い分布だが、組織協力体制（P22）と丁寧な対応（P25）は学年差（D）が付いている。
- 学年差（D）は **P22・P25** に見られ、いずれも1年が高め、4年が低め、6年で持ち直す形を取る（P22=1年1.62→4年0.95→6年1.53、P25=1年1.47→4年0.61→6年1.47）。
- 地域は情報提供（R23）と連携対応（R25）に（?）が付いており、無回答割合が高い。地域側の母数が小さい影響がこの領域でも見える。

学校全体・対象者間の平均差

- 対象者間比較では、協力体制（22）や情報提供（23）、丁寧な対応（25）で、保護者平均（1点台前半）に対し教職員平均（2点台）が上回る。児童・保護者の体感と教職員の自己評価の間に差がある、という特徴が確認できる。

項目	児童	保護者	地域	教職員
21 わたしは、楽しく登校している。子供は、楽しく登校している。	1.76	1.49	1.57	2.05
22 学校は、校長をはじめとする教職員の協力体制ができています。		1.26	1.86	2.26
23 学校は、学校だよりやホームページ、すぐるによって、保護者として知りたい情報を伝えてくれています。		1.42	1.83	2.26
24 学校は、教育活動を公開する機会を多様に設けている。		1.36	1.29	2.11
25 学校は、児童の指導で、保護者と連携・相談しながら、丁寧に対応している。		1.17	1.36	2.32



学校側は、保護者評価が低い点として「丁寧な対応・保護者との連携・情報提供の分かりやすさ」を三点で特定し、さらに「地域行事やPTA イベントへの参加」が児童・保護者で低いことを課題としている。

背景として、情報はポスターや「すぐーる」で知らせているが“一括整理”がなく、日時・主体・参加条件が分かりにくいこと、児童がポスターを見ていない場合があること、保護者が来校する機会が減っていることを挙げている。

来年度改善として、①情報提供の分かりやすさ（年度末保護者会で行事周知＋配信、玉小だよりの配信タイミングと予定提示、直前の「すぐーる」再周知）、②丁寧な対応（学年チーム対応の共有、面談可能性の明示、業務効率化・働き方改革、多様な学び・居場所の推進）、③地域行事・PTA イベント参加（学校運営協議会で情報整理、掲示板・校内放送、担任からの紹介、教員間の周知）を示している。

アンケートで示された「保護者体感＜教職員自己評価」というギャップ構造に対し、改善策が“情報設計（整理・再周知・配信）”と“組織運用（学年チーム対応、面談導線、働き方改革）”の両輪で立てられており妥当である。保護者ヒアリングでも「子どもに送った情報は保護者が参照できない」「保護者と情報共有を」など連絡基盤の課題が繰り返し出ており、学校側の“配信・直前リマインド・プラットフォーム整備”は現実的な改善方向である。

4 家庭地域

この領域は、児童1項目・保護者2項目・地域1項目で構成される。

4領域の中で最も平均が低く、唯一マイナス平均が明確に現れている領域である。とくに「参加」に関する項目は対象者間で一貫して低め、かつ無回答も多く、回答の困難さと評価の割れが同時に見える。

- **C51（児童：PTA・地域の活動や行事によく参加）** は学年差（D）かつ（？－）で、「無回答の割合が高く、質問に課題がある」上に「全項目中で特にネガティブな平均値」である。分布としても否定側（思わない・あまり思わない）が相当数を占め、肯定側が伸びにくい。
- **P52（保護者：PTA・地域の活動や行事によく参加）** も（D－）で平均0.34と低く、学年別では2年0.88と相対的に高い一方、6年は-0.15まで下がり、学年によって参加の見え方が変動する。
- **R51（地域：教員や保護者は参加している）** は（？－）で平均-0.38とマイナスで、無回答割合が高い上に否定側も一定数ある。地域側から見る参加状況は厳しめに出ている。
- 一方、参加とは別軸の **P51（家庭は学校の教育方針を理解し協力）** は平均1.17とプラスで、同領域内で相対的に高い。家庭の「理解・協力」は肯定優勢だが、「活動・行事への参加」とは別の分布になっている。

家庭地域・対象者間の平均差

- 対象者間比較（51）では、児童-0.70、保護者0.34、地域-0.38と方向性が揃わず、同一テーマでも立場により平均が異なることが明確である（とくに児童と保護者で符号が異なる）。

項目	児童	保護者	地域	教職員
51 わたしは、PTA・地域の活動や行事によく参加している。家庭では、学校やPTA・地域の活動や行事によく参加している。	-0.70	0.34	-0.38	

学校側は、地域行事や PTA イベント参加が低いことを「学校全体」課題としても取り上げ、情報の一括整理不足（日時・場所・主体・参加条件が分かりにくい）を主要因として説明している。

来年度は、学校運営協議会が中心となって地域行事情報を整理し早期周知すること、掲示板・校内放送・担任からの紹介など複線化することを改善策としている。

本領域は平均が最も低く、かつ「参加」設問は無回答も多いという構造的困難が示されているため、まず“情報の可視化・到達”を整える改善策は優先順位が高く妥当である。保護者ヒアリングでも「地域行事の種類や日程が把握できない」「情報の伝え方の工夫が必要」「固定メンバー化」などが言及されており、情報整理と参加層拡大の方向性は一致する。R8 方針は、学校運営協議会を軸に地域行事も含めて発信することを明言しており、改善策の実装主体が明確である点が強みである。

5 無答傾向

無回答傾向の特徴としては、学校活動への接点・可視性が低い立場であること（特に地域、次いで保護者）、学校内部の教育内容や組織運営など、外部から見えにくい項目であること、抽象度が高く、評価基準が共有されていない設問であること、複数主体の行動や連携を一括して問う構造を持つことが挙げられる。すなわち、これは回答に対する消極的態度ではなく、評価以前の情動的・構造的条件が反映されている。

学校側の改善策（行事情報の一括整理、配信の複線化、公開機会の設計、活動日の参観呼びかけ等）は、この「可視性」「評価基準の未共有」という無回答要因に直接働きかける内容であり、無回答そのものを“態度”ではなく“条件”として捉え直す方向と整合する。

6 回答傾向がポジティブな項目

回答傾向がポジティブな項目は、学校内部で完結し、体感しやすい内容、実施の有無が明確な活動、感情や人間関係に関わる設問に集中しやすく、かつ 教職員カテゴリで特に顕著である。

“体感しやすい／学校内で完結”な強みは、学校の基礎体力として重要である。一方で、対外的な理解や参加（家庭地域、情報提供）に課題が出やすい構造とも表裏であるため、学校側が「丁寧な対応」「情報提供の分かりやすさ」「公開・参観機会」へ改善の軸足を置いたことは、強みを保ちながら弱点を補う設計になっている。

7 回答傾向がネガティブな項目

回答傾向がネガティブな項目は、家庭・地域との参加や連携に関わる内容、学校内部の取組を外部から評価する設問、抽象度が高く評価基準が揺れやすい項目に集中しやすく、特に 保護者・地域カテゴリで顕在化しやすい、といえる。

学校側の回答は、まさに「外部から評価しにくい」「基準が共有されにくい」領域に対し、①説明と可視化（学習の意図、行事情報、公開の設計）②相談と連携の手続き（早期連絡・面談・フォロー）を改善の中心に据えている。ネガティブ項目の性質に対して、手当の方向が適合している。

8 群間差のある項目

児童項目の学年差は行動・関係性に関わる項目で差が出やすい。ルールを守る、相談しやすいといった、行動規範や対人関係に関わる項目に出ている。これらは、集団生活への適応や対人認知の変化が学年進行とともに反映されやすい。

保護者項目は「U字型」に近い変化が繰り返し現れ、学習・指導の「見え方」に関わる項目で顕著である。保護者は学年が進むにつれて、学習内容が高度化、成果の可視化が難しくなるという状況の中で、評価基準を変化させている可能性が、数値に表れている。

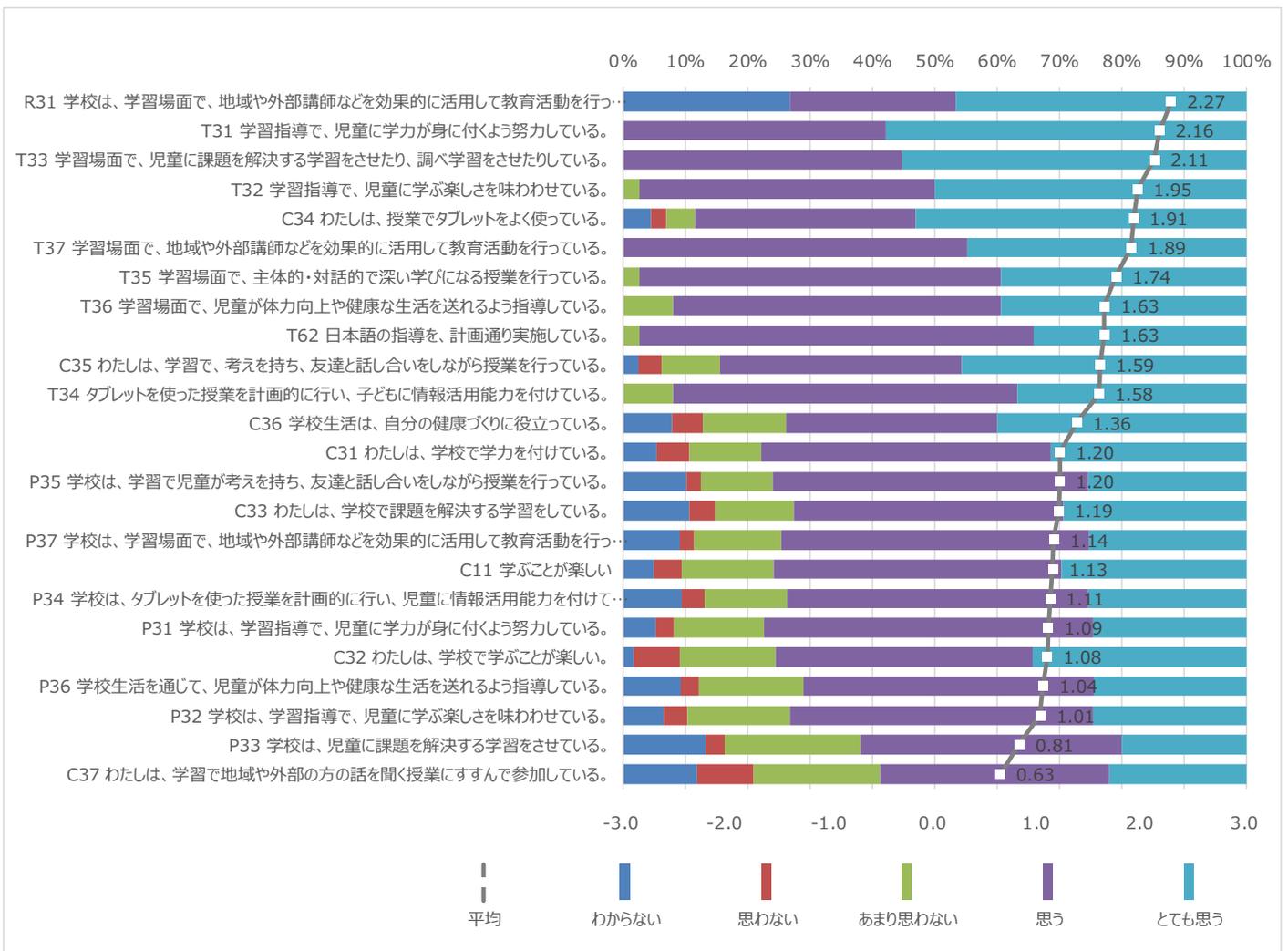
学年進行に伴う“見え方”の変化を前提にすると、学校側が「低学年からの納得形成（きまりの必要性）」「学習の意図を児童・保護者に伝える」「公開・発表会で成果を見せる」へ重点化したことは、群間差の出やすいポイントを的確に押さえた対応である。

別紙：評価資料

記号凡例 土特にポジティブ/ネガティブな項目 ?無回答が多い項目 D 学年差がある項目

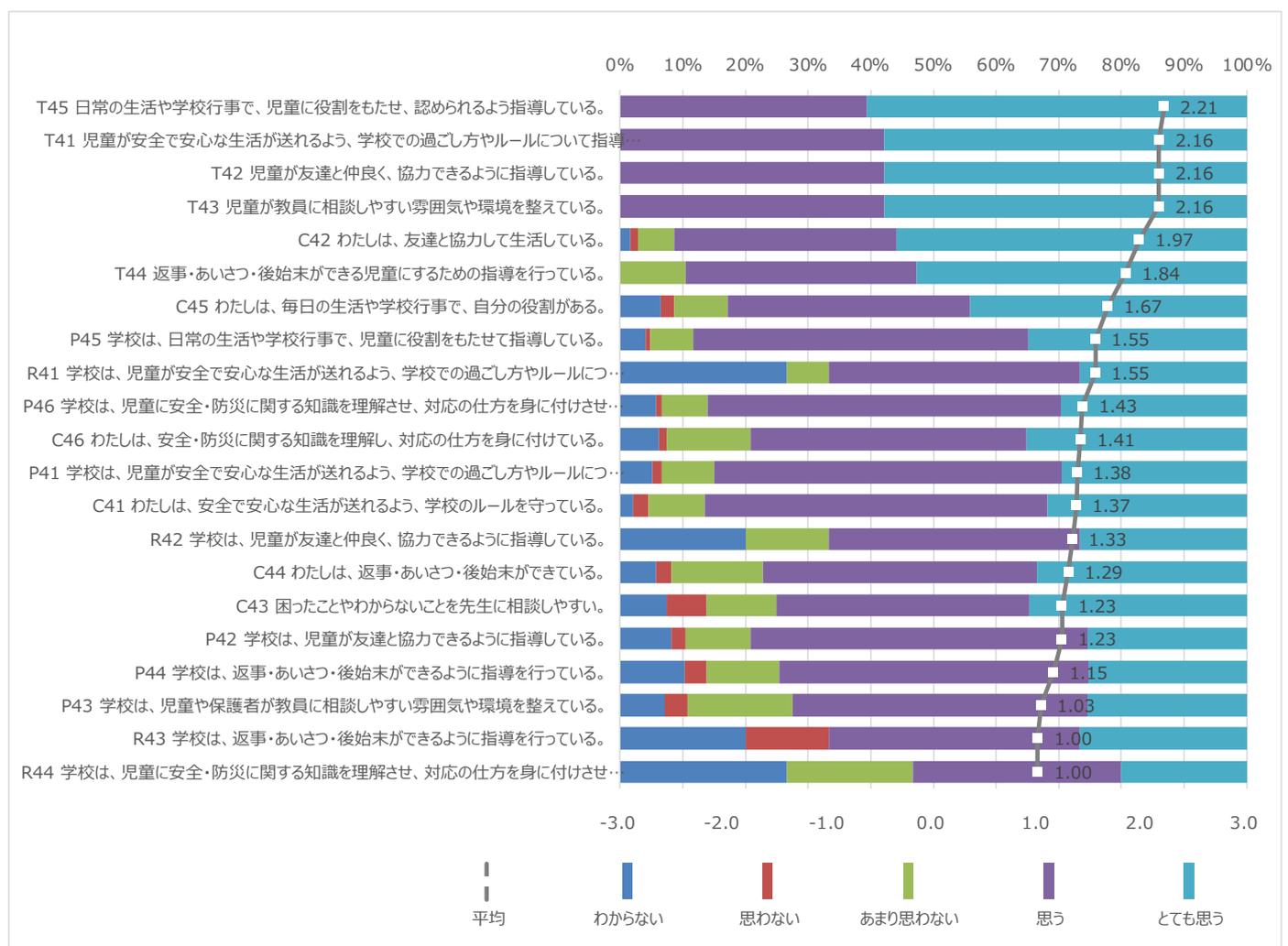
1 学習指導

ID項目	わからない	思わない	あまり思わ	思う	とても思う	平均	記号
C11 学ぶことが楽しい	12	11	36	113	73	1.13	
C31 わたしは、学校で学力を付けている。	13	13	28	114	77	1.20	
C32 わたしは、学校で学ぶことが楽しい。	4	18	38	101	84	1.08	-
C33 わたしは、学校で課題を解決する学習をしている。	26	10	31	106	72	1.19	
C34 わたしは、授業でタブレットをよく使っている。	11	6	11	87	130	1.91	+
C35 わたしは、学習で、考えを持ち、友達と話し合いをしながら授業を行っている。	6	9	23	95	112	1.59	
C36 学校生活は、自分の健康づくりに役立っている。	19	12	33	83	98	1.36	
C37 わたしは、学習で地域や外部の方の話を聞く授業にすすんで参加している。	29	22	50	90	54	0.63	-
P31 学校は、学習指導で、児童に学力が身に付くよう努力している。	28	16	79	288	135	1.09	D
P32 学校は、学習指導で、児童に学ぶ楽しさを味わわせている。	35	21	90	265	135	1.01	D-
P33 学校は、児童に課題を解決する学習をさせている。	72	17	119	229	109	0.81	? -
P34 学校は、タブレットを使った授業を計画的に行い、児童に情報活用能力を付けている。	51	20	72	264	139	1.11	
P35 学校は、学習で児童が考えを持ち、友達と話し合いをしながら授業を行っている。	55	13	63	276	139	1.20	D
P36 学校生活を通じて、児童が体力向上や健康な生活を送れるよう指導している。	50	16	92	254	134	1.04	
P37 学校は、学習場面で、地域や外部講師などを効果的に活用して教育活動を行っている。	49	13	76	270	138	1.14	
R31 学校は、学習場面で、地域や外部講師などを効果的に活用して教育活動を行っている。	4	0	0	4	7	2.27	? +
T31 学習指導で、児童に学力が身に付くよう努力している。	0	0	0	16	22	2.16	
T32 学習指導で、児童に学ぶ楽しさを味わわせている。	0	0	1	18	19	1.95	
T33 学習場面で、児童に課題を解決する学習をさせたり、調べ学習をさせたりしている。	0	0	0	17	21	2.11	
T34 タブレットを使った授業を計画的に行い、子どもに情報活用能力を付けている。	0	0	3	21	14	1.58	-
T35 学習場面で、主体的・対話的で深い学びになる授業を行っている。	0	0	1	22	15	1.74	
T36 学習場面で、児童が体力向上や健康な生活を送れるよう指導している。	0	0	3	20	15	1.63	-
T37 学習場面で、地域や外部講師などを効果的に活用して教育活動を行っている。	0	0	0	21	17	1.89	
T62 日本語の指導を、計画通り実施している。	0	0	1	24	13	1.63	-



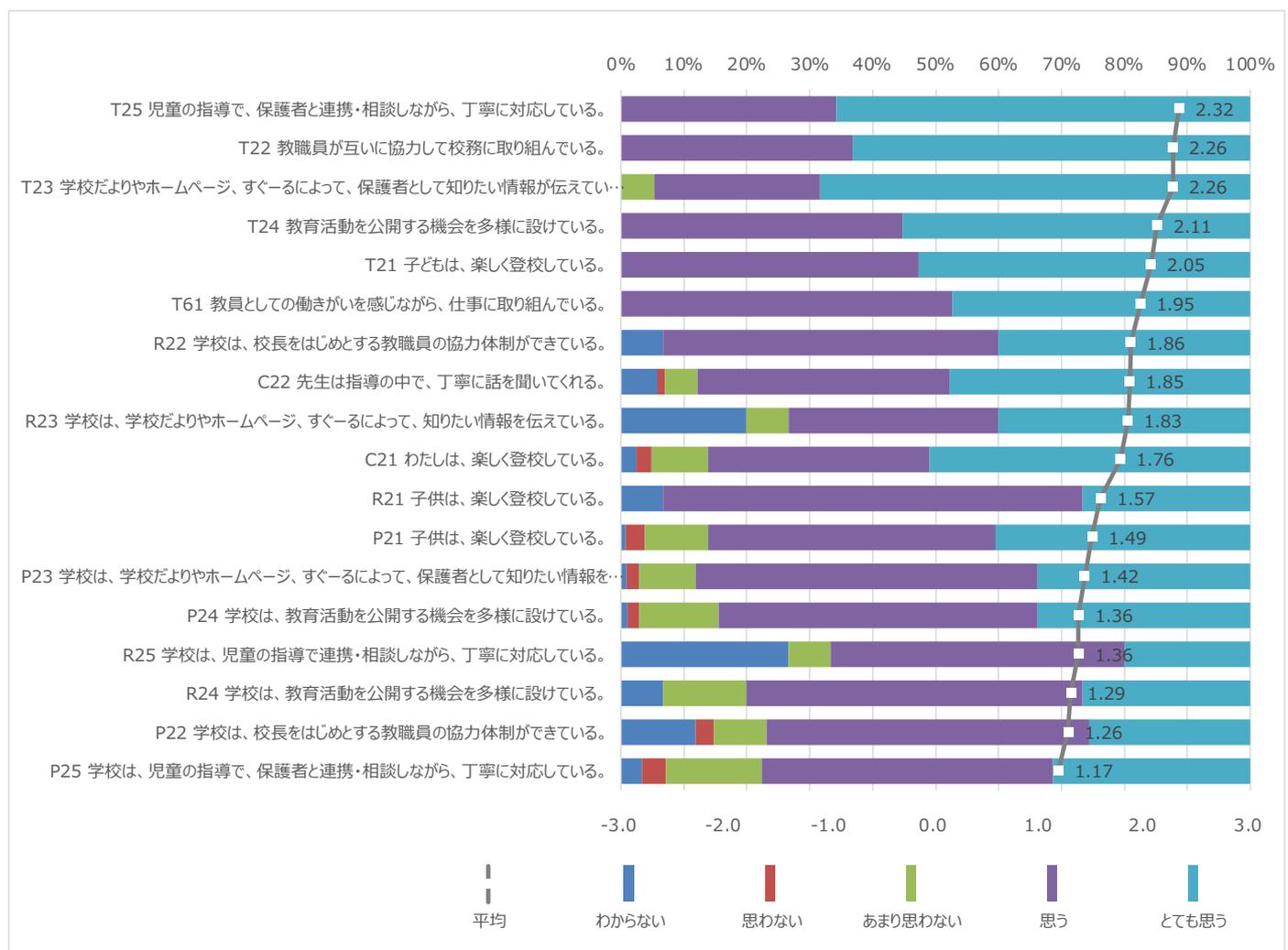
2 生活指導

ID項目	わからない	思わない	あまり思わ	思う	とても思う	平均	記号
C41 わたしは、安全で安心な生活が送れるよう、学校のルールを守っている。	5	6	22	134	78	1.37	D
C42 わたしは、友達と協力して生活している。	4	3	14	87	137	1.97	+
C43 困ったことやわからないことを先生に相談しやすい。	18	16	27	99	85	1.23	D
C44 わたしは、返事・あいさつ・後始末ができています。	14	6	36	107	82	1.29	
C45 わたしは、毎日の生活や学校行事で、自分の役割がある。	16	5	21	95	108	1.67	
C46 わたしは、安全・防災に関する知識を理解し、対応の仕方を身に付けている。	15	3	33	108	86	1.41	
P41 学校は、児童が安全で安心な生活が送れるよう、学校での過ごし方やルールについて指導している。	28	8	46	303	161	1.38	D
P42 学校は、児童が友達と協力できるように指導している。	45	12	57	293	139	1.23	D
P43 学校は、児童や保護者が教員に相談しやすい雰囲気や環境を整えている。	39	20	91	257	139	1.03	D
P44 学校は、返事・あいさつ・後始末ができるように指導を行っている。	56	19	64	269	138	1.15	D
P45 学校は、日常の生活や学校行事で、児童に役割をもたせて指導している。	22	4	38	292	190	1.55	+
P46 学校は、児童に安全・防災に関する知識を理解させ、対応の仕方を身に付けさせている。	31	5	40	308	162	1.43	D+
R41 学校は、児童が安全で安心な生活が送れるよう、学校での過ごし方やルールについて指導している。	4	0	1	6	4	1.55	?
R42 学校は、児童が友達と仲良く、協力できるように指導している。	3	0	2	6	4	1.33	?
R43 学校は、返事・あいさつ・後始末ができるように指導を行っている。	3	2	0	6	4	1.00	?-
R44 学校は、児童に安全・防災に関する知識を理解させ、対応の仕方を身に付けさせている。	4	0	3	5	3	1.00	?-
T41 児童が安全で安心な生活が送れるよう、学校での過ごし方やルールについて指導している。	0	0	0	16	22	2.16	
T42 児童が友達と仲良く、協力できるように指導している。	0	0	0	16	22	2.16	
T43 児童が教員に相談しやすい雰囲気や環境を整えている。	0	0	0	16	22	2.16	
T44 返事・あいさつ・後始末ができる児童にするための指導を行っている。	0	0	4	14	20	1.84	
T45 日常の生活や学校行事で、児童に役割をもたせ、認められるよう指導している。	0	0	0	15	23	2.21	



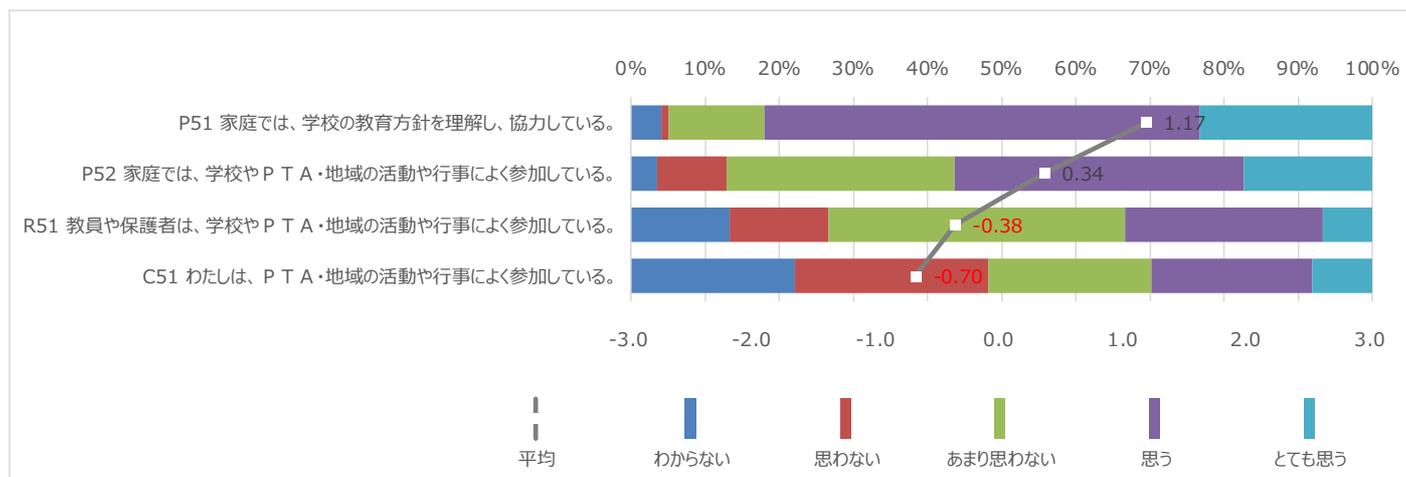
3 学校全体

ID項目	わからない	思わない	あまり思わ	思う	とても思う	平均	記号
C21 わたしは、楽しく登校している。	6	6	22	86	125	1.76	
C22 先生は指導の中で、丁寧に話を聞ってくれる。	14	3	13	98	117	1.85	+
P21 子供は、楽しく登校している。	4	17	55	249	221	1.49	+
P22 学校は、校長をはじめとする教職員の協力体制ができています。	65	16	45	280	140	1.26	D
P23 学校は、学校だよりやホームページ、すぐるによって、保護者として知りたい情報を伝え	5	11	49	296	185	1.42	
P24 学校は、教育活動を公開する機会を多様に設けている。	6	10	69	276	185	1.36	
P25 学校は、児童の指導で、保護者と連携・相談しながら、丁寧に対応している。	18	21	83	253	171	1.17	D
R21 子供は、楽しく登校している。	1	0	0	10	4	1.57	
R22 学校は、校長をはじめとする教職員の協力体制ができています。	1	0	0	8	6	1.86	+
R23 学校は、学校だよりやホームページ、すぐるによって、知りたい情報を伝えている。	3	0	1	5	6	1.83	?
R24 学校は、教育活動を公開する機会を多様に設けている。	1	0	2	8	4	1.29	
R25 学校は、児童の指導で連携・相談しながら、丁寧に対応している。	4	0	1	7	3	1.36	?
T21 子どもは、楽しく登校している。	0	0	0	18	20	2.05	
T22 教職員が互いに協力して校務に取り組んでいる。	0	0	0	14	24	2.26	+
T23 学校だよりやホームページ、すぐるによって、保護者として知りたい情報が伝えている。	0	0	2	10	26	2.26	+
T24 教育活動を公開する機会を多様に設けている。	0	0	0	17	21	2.11	
T25 児童の指導で、保護者と連携・相談しながら、丁寧に対応している。	0	0	0	13	25	2.32	+
T61 教員としての働きがいを感じながら、仕事に取り組んでいる。	0	0	0	20	18	1.95	



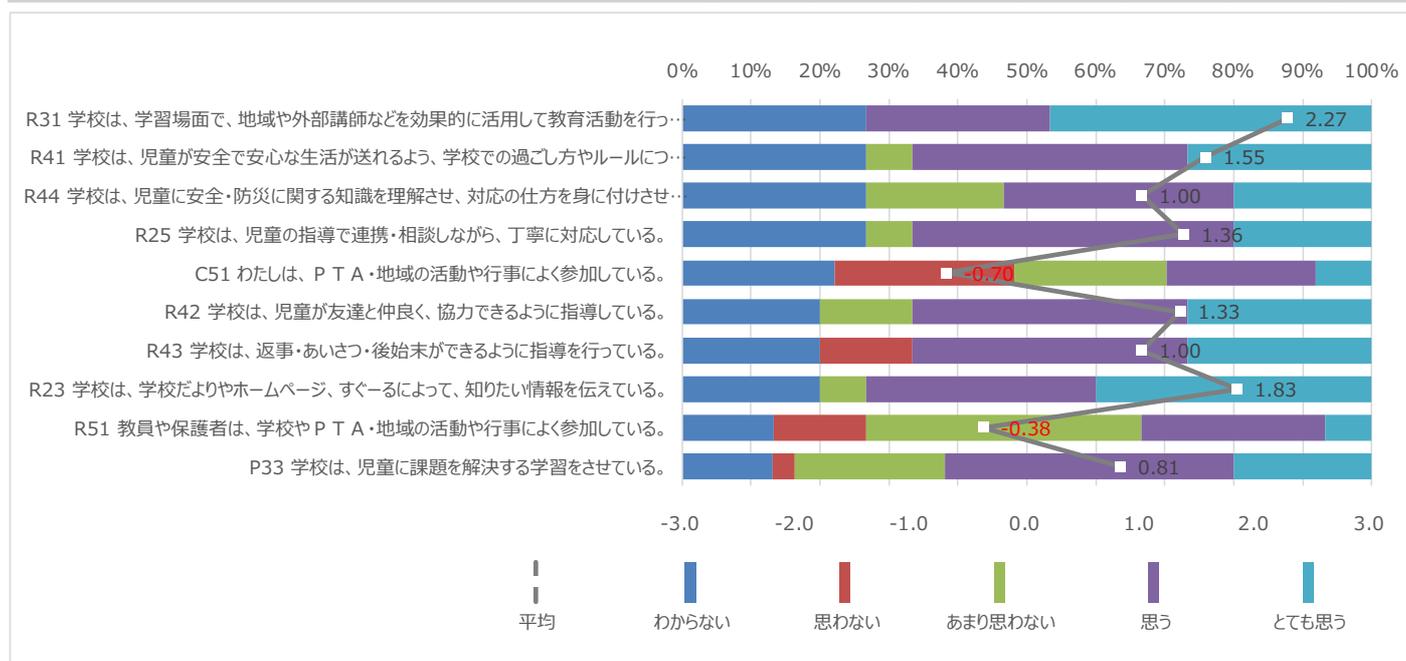
4 家庭地域

ID項目	わからない	思わない	あまり思わ	思う	とても思う	平均	記号
C51 わたしは、P T A・地域の活動や行事によく参加している。	54	64	54	53	20	-0.70	D?-
P51 家庭では、学校の教育方針を理解し、協力している。	22	6	70	321	127	1.17	
P52 家庭では、学校やP T A・地域の活動や行事によく参加している。	19	51	168	213	95	0.34	D-
R51 教員や保護者は、学校やP T A・地域の活動や行事によく参加している。	2	2	6	4	1	-0.38	?-



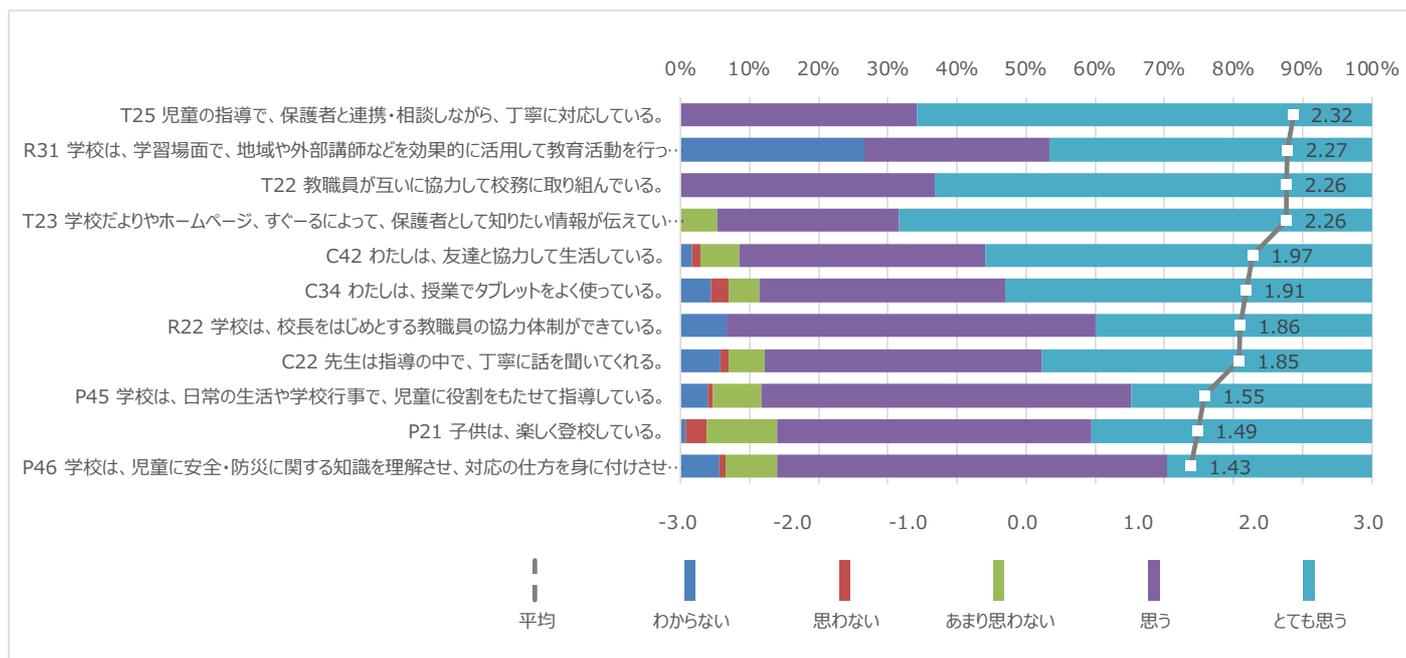
5 無答傾向

ID項目	わからない	思わない	あまり思わ	思う	とても思う	平均	記号
R31 学校は、学習場面で、地域や外部講師などを効果的に活用して教育活動を行って	4	0	0	4	7	2.27	?+
R41 学校は、児童が安全で安心な生活が送れるよう、学校での過ごし方やルールにつ	4	0	1	6	4	1.55	?
R44 学校は、児童に安全・防災に関する知識を理解させ、対応の仕方を身に付けさせ	4	0	3	5	3	1.00	?-
R25 学校は、児童の指導で連携・相談しながら、丁寧に対応している。	4	0	1	7	3	1.36	?
C51 わたしは、P T A・地域の活動や行事によく参加している。	54	64	54	53	20	-0.70	D?-
R42 学校は、児童が友達と仲良く、協力できるように指導している。	3	0	2	6	4	1.33	?
R43 学校は、返事・あいさつ・後始末ができるように指導を行っている。	3	2	0	6	4	1.00	?-
R23 学校は、学校だよりやホームページ、すぐるによって、知りたい情報を伝えている。	3	0	1	5	6	1.83	?
R51 教員や保護者は、学校やP T A・地域の活動や行事によく参加している。	2	2	6	4	1	-0.38	?-
P33 学校は、児童に課題を解決する学習をさせている。	72	17	119	229	109	0.81	?-



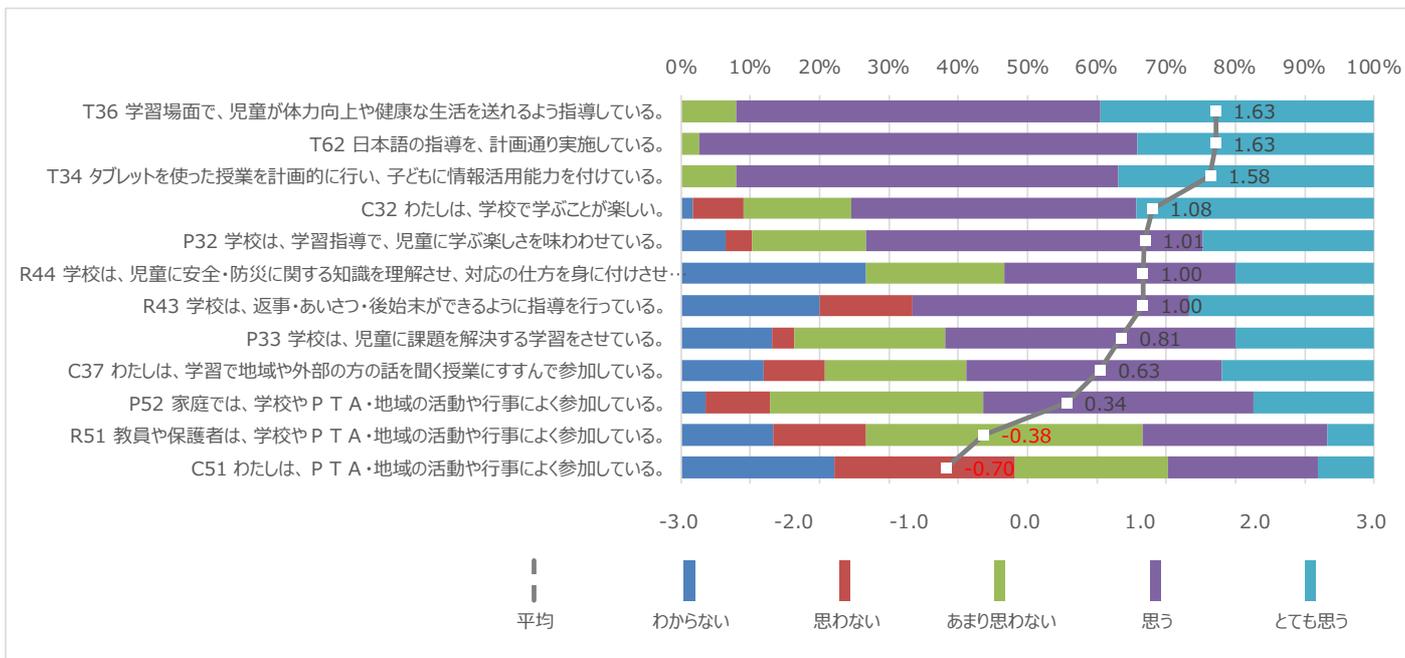
6 回答傾向がポジティブな項目

ID項目	わからない	思わない	あまり思わ	思う	とても思う	平均	記号
T25 児童の指導で、保護者と連携・相談しながら、丁寧に対応している。	0	0	0	13	25	2.32	+
R31 学校は、学習場面で、地域や外部講師などを効果的に活用して教育活動を行っ	4	0	0	4	7	2.27	?+
T22 教職員が互いに協力して校務に取り組んでいる。	0	0	0	14	24	2.26	+
T23 学校だよりやホームページ、すぐるによって、保護者として知りたい情報が伝えている。	0	0	2	10	26	2.26	+
C42 わたしは、友達と協力して生活している。	4	3	14	87	137	1.97	+
C34 わたしは、授業でタブレットをよく使っている。	11	6	11	87	130	1.91	+
R22 学校は、校長をはじめとする教職員の協力体制ができています。	1	0	0	8	6	1.86	+
C22 先生は指導の中で、丁寧に話を聞いてくれる。	14	3	13	98	117	1.85	+
P45 学校は、日常生活や学校行事で、児童に役割をもたせて指導している。	22	4	38	292	190	1.55	+
P21 子供は、楽しく登校している。	4	17	55	249	221	1.49	+
P46 学校は、児童に安全・防災に関する知識を理解させ、対応の仕方を身に付けさせてい	31	5	40	308	162	1.43	D+



7 回答傾向がネガティブな項目

ID項目	わからない	思わない	あまり思わ	思う	とても思う	平均	記号
T36 学習場面で、児童が体力向上や健康な生活を送れるよう指導している。	0	0	3	20	15	1.63	-
T62 日本語の指導を、計画通り実施している。	0	0	1	24	13	1.63	-
T34 タブレットを使った授業を計画的に行い、子どもに情報活用能力を付けている。	0	0	3	21	14	1.58	-
C32 わたしは、学校で学ぶことが楽しい。	4	18	38	101	84	1.08	-
P32 学校は、学習指導で、児童に学ぶ楽しさを味わわせている。	35	21	90	265	135	1.01	D-
R44 学校は、児童に安全・防災に関する知識を理解させ、対応の仕方を身に付けさせてい	4	0	3	5	3	1.00	?-
R43 学校は、返事・あいさつ・後始末ができるように指導を行っている。	3	2	0	6	4	1.00	?-
P33 学校は、児童に課題を解決する学習をさせている。	72	17	119	229	109	0.81	?-
C37 わたしは、学習で地域や外部の方の話を聞く授業にすすんで参加している。	29	22	50	90	54	0.63	-
P52 家庭では、学校やPTA・地域の活動や行事によく参加している。	19	51	168	213	95	0.34	D-
R51 教員や保護者は、学校やPTA・地域の活動や行事によく参加している。	2	2	6	4	1	-0.38	?-
C51 わたしは、PTA・地域の活動や行事によく参加している。	54	64	54	53	20	-0.70	D?-



8 群間差のある項目

ID項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
P46 学校は、児童に安全・防災に関する知識を理解させ、対応の仕方を身に付けさせてい	1.78	1.27	1.41	1.19	1.46	1.52
P41 学校は、児童が安全で安心な生活が送れるよう、学校での過ごし方やルールについて指	1.84	1.25	1.12	1.24	1.36	1.53
C41 わたしは、安全で安心な生活が送れるよう、学校のルールを守っている。					1.20	1.56
P22 学校は、校長をはじめとする教職員の協力体制ができています。	1.62	1.19	1.24	0.95	1.15	1.53
C43 困ったことやわからないことを先生に相談しやすい。					1.00	1.49
P42 学校は、児童が友達と協力できるように指導している。	1.51	1.03	1.15	0.86	1.31	1.53
P35 学校は、学習で児童が考えを持ち、友達と話し合いをしながら授業を行っている。	1.44	0.95	1.11	0.79	1.32	1.56
P25 学校は、児童の指導で、保護者と連携・相談しながら、丁寧に対応している。	1.47	1.07	1.17	0.61	1.27	1.47
P44 学校は、返事・あいさつ・後始末ができるように指導を行っている。	1.64	0.87	0.97	0.82	1.24	1.30
P31 学校は、学習指導で、児童に学力が身に付くよう努力している。	1.52	1.07	0.95	0.82	0.93	1.34
P43 学校は、児童や保護者が教員に相談しやすい雰囲気や環境を整えている。	1.45	0.75	0.87	0.67	1.09	1.37
P32 学校は、学習指導で、児童に学ぶ楽しさを味わわせている。	1.51	0.73	0.97	0.78	0.85	1.29
P52 家庭では、学校やP T A・地域の活動や行事によく参加している。	0.26	0.88	0.42	0.36	0.23	-0.15
C51 わたしは、P T A・地域の活動や行事によく参加している。					-0.41	-1.07

